

第5学年 「総合的な学習の時間」活動案

指導者 松井 綾

1、単元名 地域の防災として自分たちにできることを考えよう

2、単元目標

- 課題を解決するための方法を、筋道を立てて考え、課題に沿って情報を収集し、効果的な思考ツールを使って整理・分析し、発信することができる。
- 竹田市の過去の災害を調べ、被災者の衣食住の困りから自分たちにできることを考え、竹田市の特産物を使った非常食を工夫して作ることによって、地域の一員として防災の意識を高め行動することができる。

3、評価規準

A：知識及び技能	B：思考・判断力・表現力等	C：学びに向かう力・人間性等
<p>①水害での被害や困りを知り、防災のための知識を身につける。</p> <p>②調べ学習やアンケートなどで情報を収集する技能を身につけている。</p> <p>③話し合い（話す・聞く）の技能を身につけている。</p>	<p>【①課題の設定】</p> <p>○過去に起きた水害を知り、実際に災害が起きたときにどのような準備が必要か考え、追求計画を立てている。</p> <p>【②情報の収集】</p> <p>○G Tの話やインターネット、本や資料などを使って情報を集めている。</p> <p>【③整理・分析】</p> <p>○思考ツールを使って、調べたことを分類したり比較したりしながら、分類整理している。</p> <p>【④まとめ・表現】</p> <p>○自分たちでまとめた「防災」について防災集会やP T Aで発表する。</p> <p>【⑤ふり返し】</p> <p>○学習したことをこれからの自分たちの生活に活かそうとしている。</p>	<p>【①主体性】</p> <p>○相手意識や目的意識を持って、意欲的に活動している。</p> <p>【②協働性】</p> <p>○グループの仲間と協力して、探求活動に取り組んでいる。</p> <p>【③自己理解】</p> <p>○自分のよさや自分のできることに気づいている。</p> <p>【④他者理解】</p> <p>○自分と異なる意見や考えがあり、よりよい考えを見つけるために、お互いを尊重して話し合うことの大切さに気づいている。</p> <p>【⑤社会参画】</p> <p>○自分と地域のつながりに気づき、地域のために何ができるか考えようとしている。</p>

4、指導の立場

(1) 子どもについて

5年生6名は、4・5年生の複式学級のリーダーとして、何事にも意欲的に取り組み、協力しながら学校生活を送ることができている。授業中では、友達が困っていたら教え合ったり、ペア学習やグループ学習でも自分の考えを伝えたりすることができている。しかし、集中力が続かず、授業中におしゃべりをしたり、姿勢が崩れたりするという学習規律が気になる児童もいる。

昨年度、かぼす農家の阿南さんが作っているかぼすを、多くの人に広めたいという願いから「かぼすグミ」をみんなで作った。そのかぼすグミを、まだかぼすの魅力について知らない竹田市以外の人に知ってもらうために、竹楽で観光客の方々に一人ひとり手渡しで配るという活動に取り組んだ。その活動の中で、阿南さんの美味しいかぼすをどうにかして広めたいという思いで、意欲的に取り組み、そのことを形にして発信することができたことにより、地域の一員として自分たちにできることを考え、地域とのつながりをより深めることができている。

(2) 単元について

ここ竹田市では、過去に水害による大きな被害や地震による災害を何度も繰り返してきている。1982 (S57) 年の竹田水害、1990 (H2)年の豊肥水害といった梅雨前線による集中豪雨、1993 (H5) 年や 2005 (H17)年には台風による被害を受けている。また、近年では 2012 (H24) 年 7月に発生した九州北部豪雨で、玉来川が急激に増水し氾濫を起こし、市街地は冠水し地域住民の生活に大きな影響を及ぼした。2016(H28)年の熊本地震でも、竹田市では震度5弱の揺れを感じ、数日間避難生活を強いられた住民もいた。5年生にとっても、この災害は自分たちの住んでいる地区に大きな影響を及ぼしたことから、その恐ろしさを目の当たりにして人ごとではないと感じるはずである。

毎年、本校では水害時の避難訓練を行っている。今年度は、保護者への引き渡し訓練を行い、子どもだけでなく家庭との連携をとりながら、防災について考えていこうとしている。また、豊岡地区の地域の方と協力しての防災マップ作りの計画をしており、学校と家庭と地域が一体となって防災教育に取り組もうとしている。その中で、被災者の困りである「食」に目を向け、家庭科とも関連付けながら、竹田市ならではの食材を生かしたり、美味しくしたり長く保存したりするにはどうしたらよいかを考えて非常食を作りたい。また、それを発信することにより、竹田市の一員として地域を誇りに想う気持ちが育つと考える。

(3) 指導について

まず、過去の水害の様子を当時豊岡小学校児童として体験した原山先生（豊岡小職員）や自宅が浸水した志賀さんに話を聞く。その話の中で、水害の怖さや被災した後の日常生活を取り戻すまでに苦労された話を聞く。その話を聞いて、水害の怖さや当時の困りを知ることによって、これから

「防災として自分たちにできることを考えよう」と投げかけ、防災グッズには何が必要かを考えさせる。子どもたちが考えた防災グッズを付箋に書かせ、衣食住の視点でK J法で分類させる。そして、数多くの付箋が出てきているので、「命を守るために本当に必要なものは？」という視点を与えて、自分たちで絞っていく。絞り込んだ物が竹田市洪水ハザードマップに記載されている非常持ち出しチェック表の照らし合わせて確認する。この衣食住の中で、自分たちで準備できるものは何かを考えさせ、「食」であれば自分たちでも作ることはできそうという見通しをもって「食」に目を向けていく。

次に、資料やインターネットを使って非常食について調べる。今まで給食の非常食カレーしか食べたことがなかったので、実際に様々な非常食を手に入れて食べてみたり、非常食の作り方も合わせて調べたりしていくようにする。また、実際に非常食を作るにはどうしたらよいか、どのような点が通常食と違うのかを専門家の方にアドバイスをもらう。現在、宇宙航空研究開発機構 JAXAにおいて宇宙食の研究（スペースフードスフィアのチームの一員）に携わっている菊池優太さんに、宇宙食と非常食（防災の備蓄食）の共通点からアドバイスをもらう。今回は、zoomを使った遠隔操作を使って宇宙食と非常食の共通点に気がつかせたい。

その後、大分県産のオリジナルのメニューを菊池さんに提案をしていく。それを受けて、竹田市の人たちのために非常食を作ることを目標にして、自分たちでできそうなもの、大分県産としてよさそうなもの、子どもも大人も食べられそうなものなどの項目でしぼりこんでいく（座標軸）。そして、竹田の野菜を使うことから、地域の野菜作り名人の阿南さんに地域の食材を使った料理の仕方を教えてもらったり、地域の方に料理の仕方を教えてもらったりしたい。その中で試行錯誤しながら、最終的に非常食を作る上で工夫しなければならないことに気がつくことができるだろう。その工夫やわかったことを、防災集会や学年末PTAなどで発表して発信をしていきたい。また、竹田の特産物を取り入れることから、竹田市のアピールする発信方法を考えて発信できればと考えている。

4、郷土学としてのめざす姿

- 「郷土に学び、郷土を見つめなおす」とは、竹田市の過去の災害から地域住民の苦労や困りを知り、竹田市の特産物を生かした備蓄食ができることを多くの人々に知ってもらうために、様々な活動に取り組む姿ととらえている。
- 「未来につなぐ」とは、地域の防災のために自分にできることがあることを実感し、進んで行動しようとする姿ととらえている。

6、単元計画（全35時間）

過程	おもな学習活動	【評価基準】（めざす資質・能力）
小 単 元 1 課 情 竹 田 市 の 水 害 を 知 ろ う ⑥ ま	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">週末に大雨が降ったけど、竹田市では過去にどんな水害があったのだろうか？</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;">竹田市の水害について調べよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・GTの原山先生に詳しく説明してもらったり、質問したりして当時の水害の様子を知る。 《わかったこと》 ○昭和57年の竹田水害では、豊岡小学校が浸水して、大きな被害を受けた。 ○平成2年の集中豪雨では、稲葉川が氾濫してまた被害にあった。 ○平成24年の九州北部豪雨では、豊岡地区の被害は大きくなかったが、玉来側が氾濫した。 <ul style="list-style-type: none"> ・わかったことを新聞にまとめる。 ・自宅が浸水した志賀さん夫婦の話聞く。 ○線路上り避難していた様子やその後の後片付けが何よりも大変だったことがわかる。 	<p>【思考力】 話を聞いて情報を集めることができている。 (B②)</p> <p>【表現力】 わかったことを新聞にまとめることができている。 (B④)</p>
小 単 元 2 課 情 竹 田 市 オ リ ジ ン ま	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;">被災したときのために、どんな準備が必要なのだろうか？</div> <ul style="list-style-type: none"> ・非常持ち出し品を考える。 ・分類分けして整理する。《KJ法》 <p>衣…軍手、上着、下着など</p> <p>食…乾パン、缶詰、レトルト食品、水など</p> <p>住…ラジオ、懐中電灯、ライターなど</p> <p>その他…お金、常備薬など</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 衣食住の中で、自分たちで準備できるのはどれだろう？ 非常食は、買うこともできるけど、自分たちでも作ることはできないかな？ </div>	<p>【思考力】 情報を的確に分類分けすることができている。 (B③)</p>

ナルの非常食を作ろう ②6

課

情

非常食について調べてみよう

- ・色々な備蓄食を集めて食べてみる。
缶詰、アルファ米、乾パン、レトルト食品
- ・非常食の特徴を見つける。《データチャート》

ご飯はおかゆやチキンライスなど、アレンジしやすい。

野菜や果物が少ない。

温めなくてもそのまま食べられるものが多い。

おかずは、しっかり味がついているので、お年寄りや子どもには濃い。

非常食って、どのようにして作ったらいいのかな。専門の方に聞いてみよう。

- ・JAXAの菊池優太さんに、宇宙食と非常食の共通点をおしえてもらい、メニュー考案へのミッションを受ける。(zoomにて)
- ・オリジナルの非常食の案を考える。

乾物を使った野菜サラダ

かぼすの味がするおかず

竹田産の米を使ったアルファ米

味噌玉

- ・JAXAの菊池優太さんに、自分たちの考えたメニューを発表し、アドバイスをもらう。(zoomにて)
- ・アドバイスをもとに、メニューを決める。

《座標軸》

オリジナルの非常食を作って、食べてみよう

【判断力】

非常食の特徴を見つけようとしている。(B③)

【学びに向かう力】

意欲的に話を聞こうとしている。(C①)

【学びに向かう力】

ミッションにあった非常食を自分の力で考えることができている。(C①)

【判断力】

アドバイスをいかしたメニューを決めることができる。(B④)

整

7、本時案（20/35）

(1) 題目 自分たちの考えた非常食を発表しよう

(2) 主眼 自分たちが考えた非常食のメニューを菊池さんに伝え、よかった点や改善点を教えてもらうことにより、座標軸を用いて竹田市の人たちに食べてもらい自分たちにも作ることができる非常食を整理することができる。

(3) 展開

学習活動	時間	指導及び支援	評価の観点				
1、今日のめあてを確認する。	5	○前時までの活動を振り返り、本日のめあてを確認する。					
自分たちの考えた非常食のメニューを発表しよう							
2、自分で考えたメニューを菊池さんに伝える。	10	○zoom を使った遠隔操作で、菊池さんに自分たちの考えたメニューを伝える。 ・前半…3人 ・後半…3人					
3、菊池さんに非常食作りのアドバイスを聞く。	10	○非常食作りに気をつけたいポイントやアドバイスを教えてもらう。	非常食を作る大事な点を落とさずに聞くことができるか。				
4、アドバイスをもとに、自分たちで作るメニューを考える。	15	○座標軸を用いて、2つの観点で整理していく。 ～予想される考え～ <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">子どもやお年寄りも食べられる</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <table border="1" style="border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td style="writing-mode: vertical-rl; font-size: small;">非常食にできそうにない</td> <td style="padding: 5px;"> からあげ とり天 アイス カレー バター炒め </td> <td style="padding: 5px;"> ごはん類 ゼリー ようかん 味噌玉 干し野菜 </td> <td style="writing-mode: vertical-rl; font-size: small;">非常食にできそう</td> </tr> </table> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: center; margin-top: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">サフランライス</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: center; margin-top: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">子どもやお年寄りには向かない</div> </div>	非常食にできそうにない	からあげ とり天 アイス カレー バター炒め	ごはん類 ゼリー ようかん 味噌玉 干し野菜	非常食にできそう	座標軸で観点に沿って意見を整理することができるか。
非常食にできそうにない	からあげ とり天 アイス カレー バター炒め	ごはん類 ゼリー ようかん 味噌玉 干し野菜	非常食にできそう				
5、決まったメニューを確認し、今後の見通しを持つ。	5	○次時にメニューの材料や作り方を調べ、今後の見通しを確認する。					

8, 考察

(1) 教材（素材）は、子どもの意欲を高めるものであったか。

○4年生までの学習した経験を生かし、非常食作りのアイデアにいかそうとしていた。

○菊池さんとのやりとりで意欲が高まり、竹田の地域素材を取り入れようとする姿が見られた。

○防災と宇宙を関連づけて、宇宙食をヒントに非常食を考える活動につながっていた。

△非常食の捉え方が子どもによって曖昧だったので、非常食か備蓄食か炊き出しのものなのかがはっきりするとよかった。

(2) 思考ツールは、探究的な学習につながっていたか。

○座標軸は、子どもの考えを整理していくには有効だった。

○菊池さんの専門家の助言が適切であったので、非常食のもつべき性能がはっきりした。

△メニューについてのアドバイスや改善点は、座標軸の視点がはっきりしていないので難しかった。

(3) 地域のために自分たちにできることはないか考え、行動しようとする姿につながっていたか。

○各児童が「地元のもの」や「食べたいもの」を合わせてそれぞれ考えることができていた。

○地域の人たちやお年寄りへの思いが伝わってきた。

△地域の人にインタビューしたり、具体的な人や場面を想定したりするとよかった。

(4) その他

○zoomを使った授業が今この時期に合っており、子どもの意欲につながり有効だった。

○イラストを描いていたり、菊池さんのメモを聞きながら取ったりと意欲的でよかった。

○企業との連携による授業で、総合的な学習の時間のよさがおおいに発揮できていた。

